

ライティング指導におけるフィードバックの再考察

この発表では、日本語のクラスで学生に課すライティングの課題において、教師は具体的にどのようなフィードバックをどの程度しているのか、特に上級のクラスで効果的なフィードバックの方法はどのようなものか、に焦点を当て、自らの実践を振り返りつつ報告したいと思う。

ライティングの課題に対する指導としては、書いた後の教師による添削が典型的なフィードバックだが、近年その方法と効果について詳しい研究がなされている (Tai, Lin & Yang, 2015)。しかし、日本語のクラスでの研究、特に上級のクラスを対象とした研究はこれから検証の必要な分野ではないかと思われる。もちろん教師は文法的な間違いや不自然な表現を指摘しフィードバックを与えるが、間違いをそのまま直して学習者に与えるのか、学習者が気付くように促すのか、その具体的な方法は教師の考え方や課題の内容・目的によっても異なるであろう。また、書き直しの有無、回数、他の課題との兼ね合いや時間の制約などの外的要因もあり、フィードバックは教師のプラクティカルな判断によるものも多いのではないかと。

この発表では、まず1) ライティングのフィードバックに関する先行研究の結果をまとめ、2) 次に1の視点から上級を教える教師自らの実践を省察し、その在り方の意義、効果を学生からのアンケート調査を基にして検証したいと思う。基本的には Work-in-progress という形での発表になるが、ESL 分野の先行研究で効果的だとされる Peer Review (Xiao & Lucking, 2008) についても言及したいと思う。